

平成29年度 手作り教材集



1. 色どっち？(色のマッチング)

2. 「ごろごろポン！！」ゲームの得点板(かず)

3. 絵の構成(かず)

4. お金の学習(かず)

5. 5までの数の具体物の操作(かず)

6. 「軍手シアター」ミックスジュース(ことば)

7. 色と形のマトリクス表(マッチング)

8. 絵のマッチング(マッチング)

9. あおむしくんに食べものをあげよう(マッチング)

10. やることチェック表(日常生活)

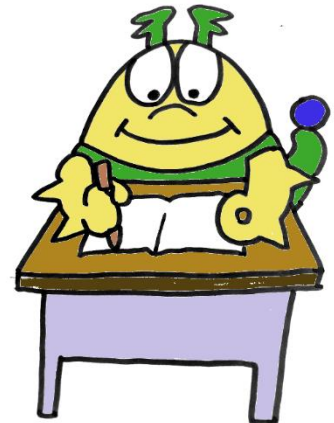
11. 自動販売機(生活単元)

12. とことん紙すき自助具 1号 2号！(生活単元)

13. シャボン玉に入ろう(生活単元)

14. ペットボトルキャップの開け、閉め教材(生活単元)

15. テープ剥がし教材(生活単元)

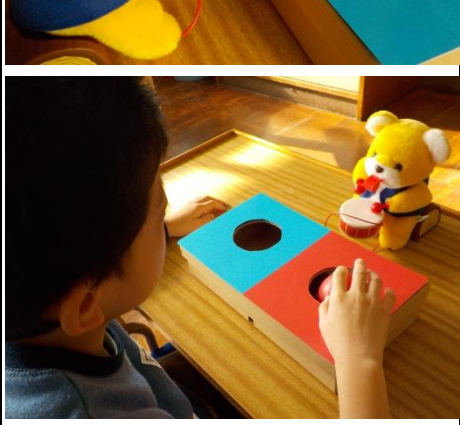


教材名

色どっち！？

作成の目的

- ・色のマッチングができる。
- ・楽しみながら学習に取り組んでほしい。

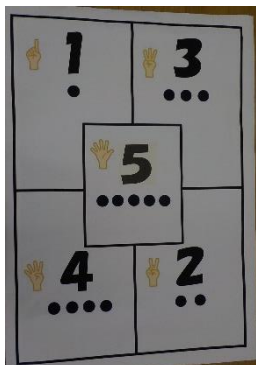
教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等
   	＜作り方＞ ・長方形の箱を用意し、中にマイクロスイッチ×2 を固定する。 ・児童の好きな電池作動式おもちゃ等を、ケーブルと片方のマイクロスイッチに、半田ごてを用いて接続する。 ・2 色の色分けシートを蓋に貼り、箱にかぶせる。 ＜使い方＞ ・事前におもちゃ等のスイッチは ON にしておく。 ・一つのカラーボールを児童に手渡す。 ・児童がカラーボールを、ボールと同じ色の場所へ入れることができればスイッチが作動し、おもちゃが音を出し動く。 ＜工夫した点＞ ・作成時に接続端子を使用したことで、スイッチとおもちゃの付け外しを可能とした。よって、おもちゃ等の変更が可能。 ・2 色の色分けシートをマジックテープで箱に貼り付けることで、他の色のシートでもできる。 ・ケーブルが反対側からも出せるように、両側の下に穴をあけた。 ＜使用感＞ ・児童の興味を引き出すおもちゃ（例：音＋動き）等を使用することで、教材に対する学習意欲が向上した。 ・違う色の場所へボールを入れるとスイッチは作動しないので、間違えたときに同じ色の場所へ再度入れ直す行動が見られた。 ＜改善点＞ ・箱やおもちゃ等を置き場に固定できると、しっかりした造りとなる。 ・今回は音＋動きのおもちゃを使用したけど、今後 LED ライトなど、光る物なども使用してみたい。 ＜活用できそうな教科領域および場面＞ 朝の個別課題 自立活動

<制作者> H・N

教材名

「ごろごろポン！！」ゲームの得点板

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

(使い方)

- ① 床に敷いてある的に向かって、ボールを投げたり、転がしたりする。
- ② ボールの止まった場所の数字を確認する。
- ③ トレーに数字と同じ数の磁石を置く。
- ④ 表にトレーの磁石と数字カードを貼る。

(工夫の要点)

- ・自分の得点が分かりやすいように一人一人色が違う磁石を用意した。
- ・実態に応じて自分で数字を選んで、貼れるようにカードを用意した。
- ・目標物の上のボールの得点を見ながら取り組めるように、磁石が付くアルミ製のトレーを使用した。
- ・指で数字を表すのが苦手な児童が多いので指数字のイラストを表示した。

(改善点)

- ・繰り返し活動に取り組み、徐々に理解してきたらドットを枠に変えてみたり、枠の数と数字を非対応の数にしてみたりする。

<活用できそうな教科領域および場面>

ことば・かず 体育 自立活動

教材名

絵の構成

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

①



②



③



④



使い方1

- ① 枠の中に下絵を入れる。
- ② 下絵に合うようにピースをはめていく。
- ③ 正しい絵が作れたら完成。
- ④ 下絵を出して確認することで、フィードバックができる

使い方2

- ① 枠に下絵は入れずに取り組む。
- ② ピースをよく見てはめていく。
- ③ 正しい絵が作れたら完成。
- ④ 下絵を出して確認することで、フィードバックができる。

（工夫の要点）

- ・下絵の入れ出しができるので、下絵を頼りに絵を構成したり、下絵なしでチャレンジしたりすることができる。
- ・ピースの数を増やすほど、難易度をあげることができる。
- ・ピースの絵をカラーにするか、線画にするかによって難易度を変えることができる。
- ・人、キャラクター、動物、乗り物、左右対称、左右非対称、とステップはいろいろと考えられる。
- ・木で枠を作ったことで、絵がずれずにぴったりと入る。

※これらの三つの要点をいろいろと組み合わせることで、ステップの変化を多様化することができる。

（改善点）

- ・ピースの形を直線で切るだけでなく、いろいろな形のピースを作ることで、ピースの形を見て絵を構成できるようにする。
- ・下絵にピース型の線がないため、形を頼りにして取り組む場合には難しい。
- ・人、キャラクター、動物、乗り物などのイメージがないと難しい。

（作り方）

板を1枚用意する。→その板の3辺（上辺以外）の長さに合わせて、平べったい棒を貼る。（下絵を入れられるようにするため）→その棒の上にプラ板を貼る。→そのプラ板の上に4辺に先程の平べったい棒を貼り、枠を作る。

＊上からみた図



←木の棒
←プラ板
←木の棒
←板

<活用できそうな教科領域および場面>

ことは・かず

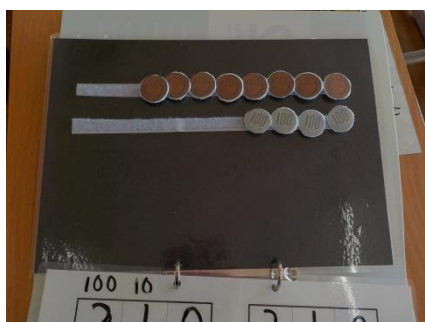
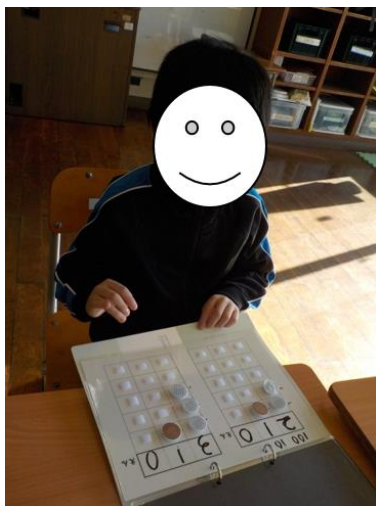
<制作者> M・M

教材名

おかねのがくしゅう

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等



<作成した理由>

硬貨の違いや名称（１００円玉、１０円玉）に親しみをもち、扱ったり指示された金額の硬貨を操作したりすることができるように、この教材を作成した。

<使い方>

- ・ホワイトボードマーカーで金額を記入。
- ・記入された金額分の硬貨模型を下に貼る。

<工夫の要点>

- ・見開きで硬貨模型が操作できるようにした。
- ・繰り返し取り組めるように、ホワイトボードマーカーでの記入やマジックテープで貼ったり剥がしたりできるようにした。
- ・今は２種類の硬貨だけの操作だが、後から１円玉も扱えるようにした。
- ・ラミネートした硬貨のイラストにスポンジで厚みをつけ、扱いやすいようにした。

<改善点>

- ・位分けした部分に硬貨のイラストがあれば、どこに貼るのか分かりやすい。
- ・位の間の縦線を太くすることで、縦に貼っていくということが意識付けられる。
- ・児童机に収まる大きさのファイルを使用するとよい。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・生活単元学習
- ・ことば・かず

<制作者> I・A

教材名

5までの数の具体物操作

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

写真①



<作成した理由>

数字と数量が一致するように作成した。数字だけを見ても数量が分かっていなかったため、なじみのある「指数字」のカードを使用し、初めは○シールの見本を見ながら具体物を操作できればと考えた。出来るようになってきたら見本を外し、数字を見て数字に合った数量の具体物が操作できるようになってほしいと思い作成した。

<使い方> 写真①、②

1. 「指数字」の真似をし、数字を確認する。
2. ○シールの見本を見て、同じ数だけ具体物を操作する。
3. 1～5まで取り組む。

写真②



<使い方> 写真③

1. 「指数字」カードをみて、具体物を操作する。
2. 1～5までの数で取り組む。

<工夫の要点>

- ・子供たちの生活とより密着した「指数字カード」を提示している。
- ・具体物の操作だけでなく、数字に合った数量のカードも選ぶことができるようになっている。
- ・○シールの見本を無くし、数字を見て具体物が操作できるように2種類の台紙を用意した。

写真③



<改善点>

- ・磁石をつける位置が見本の赤シールの下に合うようにつけることができず児童が戸惑っていたので、シートの裏の磁石の位置を直すか、見本のシールを直すすとやりやすくなる。(見本シールの下に磁石をつけるようにする。)

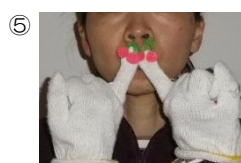
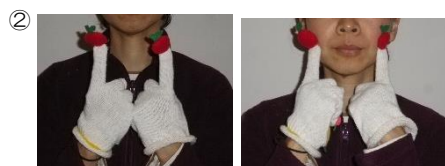
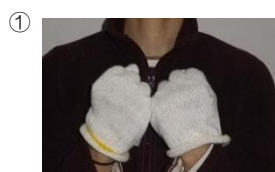
<活用できそうな教科領域および場面>

ことば・かず (かず) 朝の個別課題

<制作者> K・R

教材名 軍手シアター「ミックスジュース」

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

○作り方

- ・フェルトでミニサイズの果物（りんご、ぶどう、バナナ、さくらんぼ）を作る。→100均の貼れるフェルト2枚貼り合わせればOK
- ・軍手の指先に縫い付ける。

○使い方 ※「10人のインディアン」のメロディの替え歌です。

歌自体は、youtubeで「手遊び ミックスジュース」と入力すれば見られます。「バナナ」が「いちご」になっている歌もあります。3・4年前に、オリジナルで軍手シアターを製作しました。

- ① 両手をグーの形にして、指先が見えないようにして、児童の前に座る。
- ② 「ピッ」と言いながら、りんごのついている指先を出す。「りんごのりんごのりんごのほっぺ♪」と歌いながら両頬に指先を合わせる。
- ③ 「ピッ」と言いながら、ぶどうのついている指先を出す。「ぶどうのぶどうのぶどうのおめめ♪」と歌いながら両目に指先を合わせる。
- ④ 「ピッ」と言いながら、バナナのついている指先を出す。「バナナのバナナのバナナのおはな♪」と歌いながら鼻に指先を合わせる。
- ⑤ 「ピッ」と言いながら、さくらんぼのついている指先を出す。「お口はチェリー♪ チュッ♪」と歌いながら口に指先を合わせた後で投げキッスをする。
- ⑥ 「ぐるぐるぐるぐる、ぐるぐるまわして♪×3」と歌いながら両手をグーの形のまま（いとまきの手遊びのときのように）胸の前でまわす。
- ⑦ 「ミックスジュース♪はい、どうぞ♪」と手のひらを児童に向けて、ジュースのフェルト面を見せる。

○工夫した点

- ・興味を引くように、少し間をためて果物を出していく。カラフルなくだものがぱっと出てくると、注目する児童が多い。
- ・軍手シアターをした後で、「今度はみんながジュースを作るよ」と言葉かけをする。児童が自分の手を動かすことに気持ちを向けさせるために、軍手を外してから、児童と一緒に手遊びしながら、顔の部位を一つずつ確認していく。

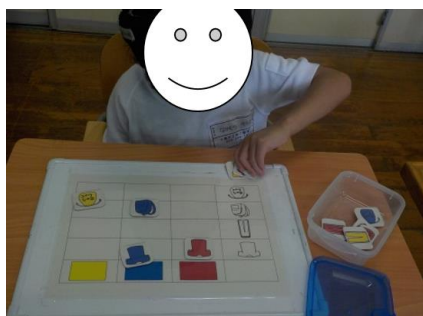
<活用できそうな教科領域および場面>

- ・読み聞かせの導入
- ・くだものを扱った単元の導入

教材名

色と形のマトリクス表

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

＜作成の目的＞

- ・色や形の属性を見分けることができるようになるため。
- ・実生活の中で、「〇色の～」と言葉を聞いて選ぶことができるようになるため。

＜教材の使用の仕方＞

- ・初めは「赤い丸」「青い三角」と教師がヒントをだし、正しいカードを選べるようにする。正しく選べるようになったら、二つの属性が当てはまるマスにカードを置けるようにする。
- ・慣れてきたら、身近なもののイラストで色と形の属性を分ける課題に取り組む。

＜工夫の要点＞

- ・生活の中でよく目にする色や形を取り入れた。
- ・持ちやすい大きさのカードを用意した。
- ・手元で行えるように、A4サイズのホワイトボードを用意した。

＜使用感＞

- ・指を使って確かめながら、色や形を見分けながら正しく並べるできるようになってきた。
- ・マグネットなので若干動いてしまうことがある。
- ・赤、青は言葉を聞いて選ぶことができるようになった。丸、三角、四角は言葉で聞いて正しく選ぶことができるようになった。

＜改善点＞

- ・慣れてくると場所で覚えてしまうので、色や形を入れ替えられるようにする。

＜活用できそうな教科領域および場面＞

- ・ことば・かず（数の学習）
- ・朝や帰りの課題の時間

教材名

絵のマッチング

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

<教材の紹介>

絵のマッチング

- ・10個の仕切りのあるケースに同じ絵柄の積み木を入れる。

指先の巧緻性

- ・ふたの開け閉めをすることで指先の運動になる。

<材料>

- ・10区切りの小物入れケース（100円ショップ）
- ・10種の絵柄×2
- ・積み木×10

<工夫点>

- ・一つずつ蓋を開け閉めして積み木を入れるので指先を動かす運動になる
- ・親しみをもって取り組めるように児童の好きなキャラクター（アンパンマン）を教材に使用
- ・手元を見ながら取り組める大きさ

<作成の仕方>

- ・積み木に絵を貼り、Bコートで覆う。
- ・仕切りのケースにも一つずつ同じ絵を貼る。

<改善点・応用>

- ・10色マッチング、数字マッチング等児童の実態に合わせて応用することができる。

<活用できそうな教科領域および場面>

ことば・かず、自立活動

教材名

あおむしくんにたべものをあげよう！

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

＜課題のねらい＞

- ・自分の好きな果物カードを選ぶことができる。
- ・教師が同じ果物カードを貼って指定した果物カードを選ぶことができる。

＜使い方＞

- ① 机の上に果物カードを並べ、好きなカードをとって、あおむしの口に入れる。
- ② 机の上に2～4種類の果物カードを並べる。教師が黒いボードに同じ果物カードを貼って指定をし、同じものを選んで取ってあおむしの口に入れる。

＜工夫点＞

- ・児童に親しみのある「はらぺこあおむし」を題材にした。
- ・果物は、「はらぺこあおむし」に出てくる、児童になじみのあるであろう4種類（りんご、なし、いちご、オレンジ）にした。
- ・マスコットキャラクターのようにしたかったので、あおむしを大きく作り、毎回登場させるようにした。
- ・あおむしの大きさに合わせることで、児童の操作のしやすさなどを考え、果物カードを大きなものにして、段ボールに貼り付けた。
- ・自分の好きなものを選べるようになったあとは、教師が指定したものを選ぶように学習を発展させることができた。

＜児童の様子＞

- ・「はらぺこあおむし」の絵本を読んでからこの学習に取り組んだことで、児童が積極的に学習に取り組むことができた。
- ・この学習を行ったことで、以降の学習で2つのうちからどちらかを選ぶことができるようになった。

＜活用できそうな教科領域および場面＞

ことば・かず

教材名

やることチェック表

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等
	<作成した理由> 活動が切り替わる前に次の活動の確認をすることで、気持ちを切り替えやすくなる児童に対して、言葉をかけるだけではなく視覚的な支援も取り入れることで、より次の活動に意識を向けられるのではないかと考えた。また、時計を意識した生活ができるような支援を放課後等デイサービスと連携して行っていく方針であるため、やるべき活動と時計を一緒に確認できる教材を作成した。 <使い方> ① 1日の日課に合わせて、日常生活のやるべきことのシートを順番に表に貼っておく。 ② 特に時間を意識してほしい活動の、左にある時計の枠にホワイトボードマーカーで時計の針を書き込む。 ③ やることが終わったら、その都度右側の「チェック」欄に、児童が好きなキャラクターのシートを貼って達成感を味わう。
	<工夫の要点> ・シートはマジックテープで貼れるようになっているため、「チェック」のシートも児童が貼りやすいようになっている。 ・表に「チェック」のシートが入っている袋を取り付けているため、やることが終わったら児童が自分で好きなシートを選んで貼ることができる。 ・左端に時計の針を書き込めるようになっている。 <改善点> ・ホワイトボードマーカーで時計の針を書き込んだところ、児童がそれを消すことにこだわってしまったため、時計の文字盤もマジックテープで貼り付けられるものにする。 ・今後前日の帰る前に、翌日のやることを児童が自分で貼るようにして、児童が自分でやることを意識できるようにしていく。 ・日程の変化に対応できるように「やること」をペンで書きこめる形式にする。 ・カードサイズにしてめくる形式にすることで持ち運びができるようになる。
	<活用できそうな教科領域および場面> 日常生活の指導

教材名

自動販売機

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

<教材の使用の仕方>

- ・硬貨を投入口に入れる
- ・飲みたいジュースのボタンを押す
- ・出てきたジュースを取る

<工夫の要点>

- ・実際の自動販売機に買い物学習に行く事前学習として取り入れた。
- ・硬貨を一枚ずつ入れる練習にもつながる。
- ・児童によってジュースの種類を入れ替えることができる。
- ・弱い力でもボタンが押せるような加減にするため、輪ゴムを調整した。
- ・欲しい商品のボタンを押すことで、その商品がすぐにでてくる流れにして、因果関係を分かりやすいようにした。
- ・硬貨の投入口を横方向にしたものをもう一台作成した。そちらは投入口が分かりやすいように赤で囲ってみた。

<使用感>

- ・興味をもって取り組む児童が多かった。
- ・自動販売機の仕組みを理解している児童は、見通しをもって取り組んでいた。
- ・硬貨の投入では、一枚ずつ慎重に指で硬貨を摘まんで入れる姿が見られた。

<改善点>

- ・硬貨の投入にかかわらず、ボタンを押せば商品が出てきてしまうので、自動販売機の後ろから、仕掛けを押さえておく必要がある。
- ・見本の商品を直接取ろうとする様子が見られたので、見本の前に透明な板などをはめることも検討（商品の入れ替えが難しくなるが）

出典 改訂版 段ボールで作るおもしろ自動販売機

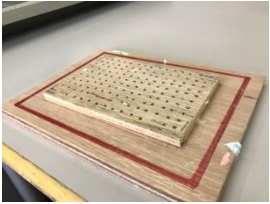
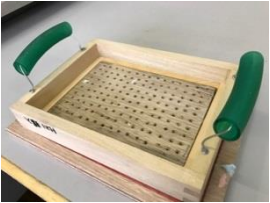
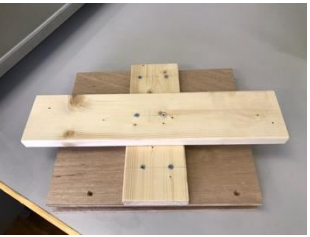
<活用できそうな教科領域および場面>

生活単元学習 自立活動

教材名 とことん紙すき自助具1号 2号！

作成の目的

- ・めいいっぱい活動できるようにする。
- ・子供たちの実態に応じて、活動できるようにする。

教材等の写真添付	教材の使用の仕方、工夫の要点、使用感、改善点など
①  ②  ③  	（とことん紙すき自助具1号の使い方） ⑤ 紙すきの枠を赤い枠に合わせて、押し込む。 ⑥ 上から水抜き版をはめ込む。 ⑦ 手のひら重ね合わせて、ギュギュと押さえつける。 （工夫の要点） ・水切り台に赤い印をつけ合わせやすいようにした。 ・押し付けた際に、金網が凹まないように水切り台を枠の高さに調整した。 ・手のひらで押せるように木材の幅を広くした。 （改善点） ・赤枠に枠を合わせづらいときがあるので枠と同じ大きさの台を使用してみる。
①  ②  ③ 	（とことん紙すき自助具2号の使い方） ① 金網とプラ板を挟んだ水分を含んだ紙を中央の台にセットする。 ② 板を閉じる。 ③ 横の棒に両手を置き、ギュギュと押さえつける。 （工夫の要点） ・押す際に、上の板のめんと金網とプラ板を挟んだ水分を含んだ紙が水平になるようにした。 ・体重がかけやすく、強い圧がかかるように板の十字を作った。 ・両手を使って押せるように、板の上に横板を置いた。 （改善点） ・押す板の部分に手を置くマークをつける。 ＜活用できそうな教科領域および場面＞ 図工 生活単元

<制作者> T・Y

教材名

シャボン玉に入ろう

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等



<材料>

- ・フラフープ（大3、中1、小3） ・自転車カバー ・毛糸
- ・シャボン液（水7：洗濯のり5：洗剤1：グリセリン0.4：ガムシロップ1個）
- ・水（軟水、水道水を使う場合は沸騰させてから使用）
- ・洗濯のり（※PVAを使用） ・洗剤（界面活性剤32%以上）

<作り方>

- 1、初めにフラフープ（大）とフラフープ（小）を3本ずつ用意し同じ大きさ同士つなぎ合わせて高さを出す。
 - 2、大きめの自転車カバーを少しだけ切り広げるようにする。
 - 3、広げた自転車カバーを初めにつなげたフラフープの上に、しわがないようにかぶせる。
 - 4、フラフープ（中）に毛糸を隙間なく巻き付ける。（毛糸なのはシャボン液がなじみやすいため）
 - 5、毛糸を巻き付けたフラフープを先ほどの自転車カバーの上に載せる。
 - 6、毛糸フラフープのところにシャボン液を入れる。
- * 行う際は、地面が平らな場所で行わないとシャボン液が偏ってしまうのでうまくできなくなってしまうです。
- * 使用後は周りが滑りやすくなるので注意。

<工夫の要点>

- 1、立つ位置が分かりやすいように、ブラフォーミングを置いた。
- 2、水はゴミや不純物が入っていないように市販の水を使用。
- 3、スティックシュガーを入れることで、シャボン玉に粘着力が生まれより割れにくくなった。
- 4、片付けがスムーズにできるように、セラピーマットを置いた上で行った。

<感想・改善点>

- ・体全部がシャボン玉に入ると、みんな嬉しそうにしていた。何回もやりたいという児童もいた。
- ・一人しか入ることができないので数人で同時に入れると良かった。
- ・大量のシャボン液を使用するので、使用中や使用後は周辺が滑りやすくなってしまったので、滑らない工夫をできると良かった。

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・遊び ・生活単元学習

※PVA ポリビニルアルコール (polyvinyl alcohol, PVA, PVOH) は[合成樹脂](#)の一種で、[親水性](#)が非常に強く、温水に可溶という特徴を持つ。別名を**ポバール** (POVAL) とも呼ばれる。Wikipedia より

<制作者> M・T

教材名

ペットボトルキャップの開け、閉め教材

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

(作成の目的)

- キャップの開け、閉めが上手にいかない児童の練習のため。
- 指先の巧緻性を高めるため。

(教材の使い方)

- 板に左手を置き、板を押さえて指先で開けていく。

(材料)

- 土台は木材などの硬いもの。
- キャップ・ペットボトル・多目的ボンド

(教材の工夫)

- 一つ一つの間隔を十分に取る。
- 土台の板は柔らかい物だとキャップを開けるとときや閉めるときにねじれが生じるため、硬いものを選んだ。
- ねじれが生じるため、土台とキャップの接地面をボンドで頑丈に固めた。
- それぞれの高さを変えることで難しさを替えた。
- キャップの閉め具合を左から順にきつく締めている。

(児童の様子)

- こちらで開ける順番は指定していないが、一通り指先で閉め具合をチェックしたうえで、緩そうなやつから開けようとしている。
- 最後に残ったキャップは大体がきつく締まっていて上から回そうとしたり、横から回そうとしたりしている。それでもできないときには教師と一緒に回す。

(改善点)

- 今回はペットボトルのキャップを使用したけど、それ以外にも大きさの違うものもあるので色々な大きさで行うのも良いと感じた。
- キャップを開けた後のキャップはそのまま机の上に置いていたけど、キャップ入れの箱などがあればよいと感じた。

<活用できそうな教科領域および場面>

- 自立活動

<制作者> Y, M

教材名

テープ剥がし教材

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

<課題のねらい>

- ・手元を見ながら、指先に力を入れてテープを剥がすことができる。

<使い方>・テープの端をつまみ、剥がす。

<工夫点>

- ・児童が好きなキャラクターのイラストを下地につけることで、意欲的に取り組めるようにした。
- ・シールをつまみ易いように、シールの端を折り曲げてつまみを作った。
- ・左利きの児童のために、横に剥がす場合は右側につまみをつけた。
- ・厚めの段ボールを使うことで、持ちやすいようにした。
- ・イラストにラミネートをすることで、繰り返し取り組めるようにした。
- ・児童の段階に合わせて、マスキングテープや粘着テープの粘着力の強さを変えることができる。

<児童の様子>

- ・初めて教材を提示したとき、好きなキャラクターを使ったことで、自分から教材を手にする様子が見られた。
- ・手本を示すと、テープを剥がせば自分の好きなキャラクターが出てくることが分かり、次からは自分からテープのつまみがどこにあるかを探し、引っ張る様子が見られた。
- ・はじめは机に教材を置いて使っていたが、両手を使った動きに取り組むために、右手で持って左手で剥がす動きに取り組んでいる。

<改善点>

- ・段ボールの両面にイラストを貼ると活動量が増えると思う。

<教材の作り方>

・材料

ラミネートしたイラスト、段ボール、ビニールテープ、両面テープ

・作り方

- ① ラミネートしたイラストと段ボールを両面テープで貼り付ける。
- ② イラストの上にビニールテープを貼る。
- ③ テープの端を折り曲げて、つまみをつくり、完成！

<活用できそうな教科領域および場面>

- ・自立活動